

序 文

ラフカディオ・ハーン（ヘルン、小泉八雲）の蔵書 2,435冊が富山大学の前身である旧制富山高等学校に寄贈された経緯については、仲介の労をとられた同校初代校長の南日恒太郎によって、最初の『ヘルン文庫目録』（1927年）の英文序文のなかに詳しく記されている。蔵書が寄贈されたのち、当時の富山高等学校の高田 力教授（英文学）、および平岡伴一教授（ドイツ文学）の手で分類、整理され、ハーン（ヘルン）蔵書目録が作成、刊行された。目録は 133ページの小冊子であり、全蔵書を英語、フランス語、和漢書に大別し、さらに内容によって細分し、書架番号順に著者、書名、発行年などの簡単な書誌を記したもので、ハーン蔵書の全貌を示す貴重な目録として長らく活用されてきた。その間、若干の誤植、誤記に気づかれることはあったが、概して正確で、信頼のおけるすぐれた目録であった。しかし現在、古書として出まわる以外に入手困難なものとなり、ハーン研究者たちの間から再版の要望がつよく、それについては今後、別途実現に努力したい。

これまで富山大学はヘルン文庫を貴重な蔵書、財産として大切に取り扱いってきた。とくに1997年の大学附属図書館の増改築にさいしては、ヘルン文庫の一層良好な保存、管理と研究者の便宜をはかるために、新館五階に特別にヘルン蔵書用の書庫と閲覧室とを用意した。ヘルン文庫には日本の各地、時には外国からの訪問客があり、必要に応じて図書館職員が案内し、簡単な説明を行なってきた。とりわけ、秋元國男図書館専門員は長年にわたってヘルン文庫の案内役を勤め、ヘルン文庫に人一倍の親しみを持った。秋元はそればかりでなく、昨年には富山大学附属図書館所蔵の『小泉八雲関係文献目録』（改訂、1998年 3月）を完成させ、引き続き、このたびは検索方法に新たな工夫をこらした「ヘルン（小泉八雲）文庫目録稿」を用意した。まだ専門研究者による十分な検討を経ていないものなので、不備な点、誤記、誤植が多いと思われるが、ただ旧版のヘルン蔵書目録と異なり、「読むヘルン蔵書目録」を意図しており、ヘルン文庫を訪れる人びと、あるいはヘルン文庫に関心をもつ人びとに便利で重宝がられるものと期待する。

近年、アメリカ、ギリシアなど海外でハーン（小泉八雲）の研究がめざましく、また来年2000年はハーンの生誕 150年にあたり、ハーンの国際的共同研究の気運が高まってきていると聞く。そうしたなかで富山大学附属図書館の所蔵するハーン蔵書（ヘルン文庫）の役割は大きく、ヘルン文庫目録をデータベース化し、インターネット上で発信、公開することが求められている。目録をはじめ、当図書館の所蔵するハーン関係の資料を整備しつつ、可能なものから逐次応えていきたい。今後とも富山大学ヘルン文庫に対する一層のご支援をお願いする次第である。

1999年 3月 1日

富山大学附属図書館長 小谷仲男